

「傾眠」「補食」「体交」「特変」などが、介護施設でよく使われるが、このような分りにくい用語を言い換える動きが出てきた。

日本語や介護の研究者グループが言い換え例をまとめて出版する予定のほか、独自で見直しを進める施設もある。しかし、「用語の方が便利だ」との見方もあり、どこまで広がるかは未知数だ。

例を挙げると、「臥床時、三角クッションを左側にプラスすれば、仰臥位もしくは軽い右側臥位の状態で過ごした」という看護記録を見たときに、即、理解しにくい。これを分りやすく言い換えると「施設入居者が横になった状態の時に、職員が三角形のクッションを左側に当てると、仰向けの姿勢、または体の右側を下にした姿勢になった」という内容になる。

介護施設では、医学や介護学が由来の専門用語や略語・造語（業界用語）が多く使われているのが現状である。しかし、最近は施設側からも、「利用者の暮らしの場に、特異な言葉はふさわしくない。だれにでも分かる言葉に換えるべきだ」との声が上がっている。

難解な用語をわかりやすくしようと、日本語や介護の研究者グループは、約 130 語の言い換え例をまとめた。きっかけは、日本の介護施設での就労を目指す外国人に日本語を教えているうちに、介護用語が日本人にも分かりにくいと感じたことだ。そこで、3社が出版している 44 冊のテキストや実際の介護記録などをもとに、約 130 語をリスト化し、言い換えてほしい用語を抽出した。

介護職員らの意見を踏まえ、提案をまとめた、遠藤織枝 文教大学元教授は「介護人材が不足する中、外国人も働きやすいよう日本語の負担を軽くする必要がある。施設入居者やその家族も困るので、まずは難解さに気付いてほしい」と話している。

まとめた提案を今秋 10 月に出版する予定だ。



既に自主的に見直しを進めている千葉・八街市の特養ホームでは、2年前から、言い換えマニュアルを策定し介護記録に、いわゆる業界用語を使わないようにしている。

※ 漢字の表記と言い換えの工夫例

- ① 傾眠＝うとうとする
- ② 補食＝栄養を補う
- ③ 体交（体位交換）＝寝返り介助
- ④ 特変（なし）＝とくに変化（なし）
- ⑤ 熱発＝発熱
- ⑥ 汚染＝汚れる
- ⑦ 失禁＝おもらし、トイレに失敗
- ⑧ 右側臥位＝右を下にして寝る
- ⑨ 盗食＝他の人の食べ物を食べる
- ⑩ 清拭＝清潔を保つために体を拭く
- ⑪ 喘鳴＝ぜいぜいする

介護分野だけでなく、難解な専門用語を言い換える試みは、法律や医療分野でも同様の試みが進んでいる。

法律用語では、日弁連が 2007 年、法律家の参考にしてもらおうと、「未必の殺意」

（死んでも構わないという思いのこと）など 61 語の言い換え例をまとめている。一般市民が参加する裁判員裁判の開始（2009 年）を前に不安の声が大きかったからだ。

また、医療用語は、国立国語研究所が 2009 年に、医師ら向けに「頓服」（症状が出た時に薬を飲む）など 57 語を提案している。インフォームド・コンセント（説明と同意）の前提として正しく患者らに伝える重要性が高まっていたからだ。

（2015/08/16 読売新聞から）